「唐丹希望基金」EEC 通信 130 号 2023-2
－唐丹小中学生に届ける鎮魂と平和の思い－

心の旅「鎮魂と平和」

未来へとつなぐ「思い」

釜石市立唐丹小学校　校長 柏 﨑 裕 之

学校の窓から見える唐丹湾。今日も海は、静かで穏やかです。海は、昔から私たち人間に多くの恵みを与えてくれました。しかし、海は私たち人間にたびたび試練も与えてきました。

平成 23 年（2011 年）３月 11 日、東日本大震災津波が発生しました。
この時、今の６年生は０歳。５年生以下の皆さんは、まだ生まれていませんでした。

太平洋沿岸のまちでは、多くの人々が犠牲となり、多くの財産が失われました。唐丹地区も例外ではなく、唐丹小の旧校舎も津波に飲み込まれて大破しました。

【2011 年 3 月 11 日の唐丹小学校】

震災直後は大混乱でした。そんな中、日本国内や世界中から多くの人々が駆けつけて私たちを勇気づけ、支援してくれました。

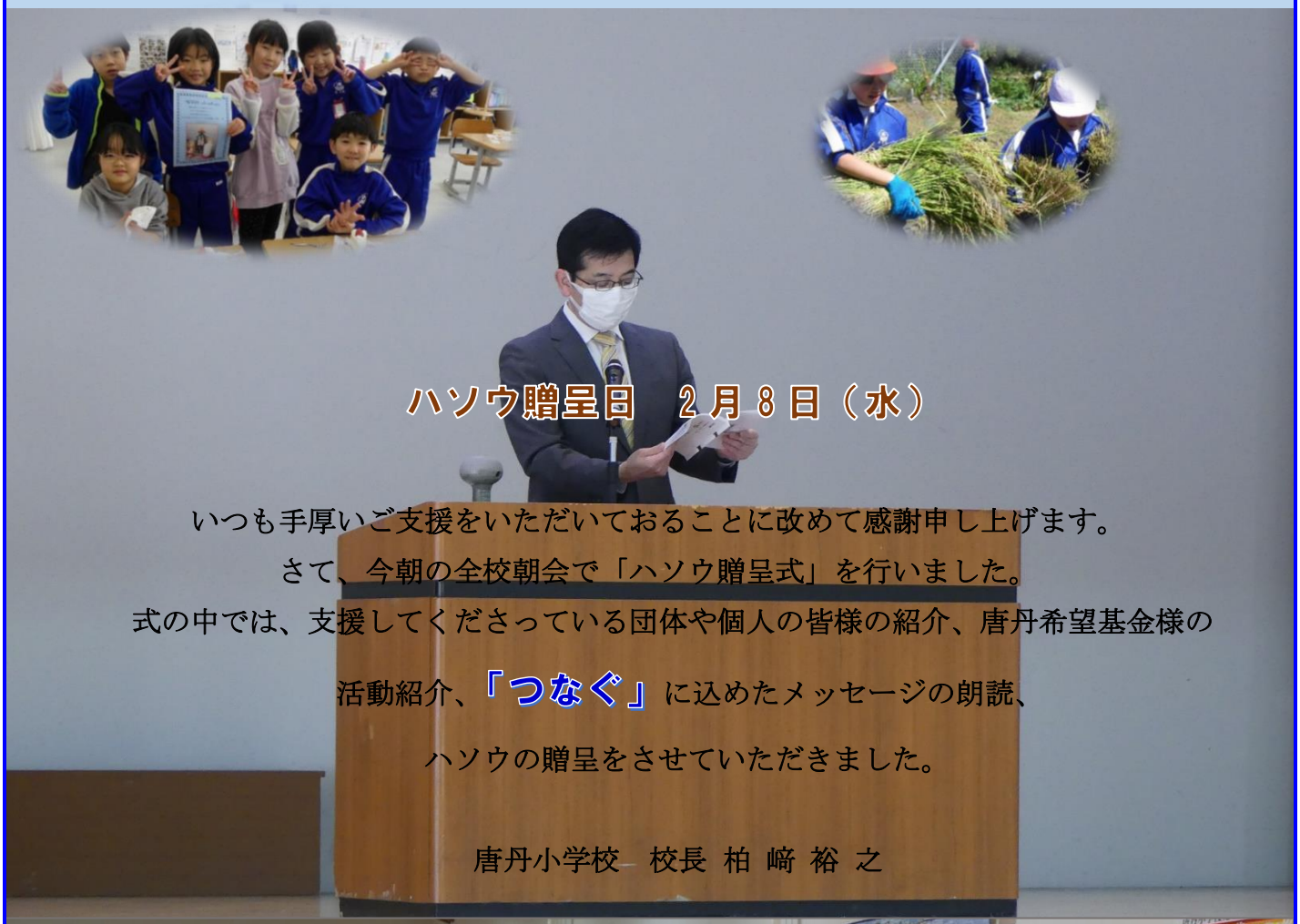
あれから 12 年。今も変わらず、私たち唐丹小・中を支援し続けてくれる団体や個人の方々が大勢います。おかげで私たちは、ここまで復興の歩みを進めることができているのです。

この御恩に応えるために、キミたち唐丹小・中の子どもたちにできることは何でしょうか。
感謝の思いを手紙で伝えるという人もいると思います。また、歌で伝えるという人もいると思います。それらも立派な考えです。しかし、もっと広く大きな心で見渡し、考えてみましょう。

御恩に応えるために、キミたち唐丹小・中の子どもたちにできること。それは、キミたちを支援してくださっている方々の「思い」を引き継ぎ、未来へとつなぐことです。
その「思い」とは・・・・

キミたちを支援してくださっている方々の「思い」というバトンを引き継ぎ、未来へとつなぐ。それがキミたちの使命であり、恩返しであると考えます。そんな考えから、ハソウに刻む言葉を『つなぐ』としました。

今こうしている瞬間にも、世界で、日本で、身近な所で、困っている人々や苦しんでいる人々がます。そんな人々のために、自分にできることはないか、みんなと協力してできることはないと考え、行動する人間になってほしいと願っています。　　令和５年１月１２日



ハソウ贈呈日　２月８日（水）

いつも手厚いご支援をいただいておることに改めて感謝申し上げます。
さて、今朝の全校朝会で「ハソウ贈呈式」を行いました。
式の中では、支援してくださっている団体や個人の皆様の紹介、唐丹希望基金様の活動紹介、**「つなぐ」**に込めたメッセージの朗読、ハソウの贈呈をさせていただきました。

唐丹小学校　校長 柏 﨑 裕 之

唐丹小「ハソウ贈呈式」 2023.2.8

子どもたちの感想

（児童代表　齋藤暎飛斗さん、鈴木琳雅さん）

・古代の人々は、亡くなった人を慰めるために、ハソウを吹いたことを初めて知った。
東日本大震災で被害があった唐丹にも当てはまると思い、嬉しく思った。

・いただいたハソウに、**『つなぐ』**などのいろいろな思いが込められているとは考えもしなかったので驚いた。
それらの思いをしっかりと受け止めたい。

・いただいたグランドピアノなどのおかげで、文化祭などもできている。支援のおかげで楽しい学校生活ができていることに感謝したい。そして、いつか恩返しがしたい。